

テーマ：法人企業統計季報（2013年7－9月期）
～未だ冴えない製造業・設備投資～

発表日：2013年12月2日（月）

第一生命経済研究所 経済調査部
エコノミスト 星野 卓也
TEL:03-5221-4526

（単位：％）

		全産業			製造業			非製造業		
		売上高	経常利益	設備投資	売上高	経常利益	設備投資	売上高	経常利益	設備投資
		前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
11年	1-3月期	0.3	11.4	3.4	2.7	▲12.5	25.5	▲0.7	26.8	▲5.9
	4-6月期	▲11.6	▲14.6	▲8.2	▲12.3	▲15.3	▲1.8	▲11.3	▲14.2	▲11.4
	7-9月期	▲1.9	▲8.5	▲11.0	▲1.7	▲18.7	▲2.3	▲2.0	▲2.7	▲15.8
	10-12月期	▲1.3	▲10.3	4.9	▲2.6	▲21.5	3.5	▲0.7	▲4.3	5.7
12年	1-3月期	0.6	9.3	3.5	1.8	3.6	3.5	0.0	11.8	3.4
	4-6月期	▲1.0	11.5	6.6	5.0	2.7	13.9	▲3.4	16.0	2.4
	7-9月期	▲4.4	6.3	2.4	▲5.6	▲2.1	0.1	▲3.8	10.2	3.9
	10-12月期	▲6.8	7.9	▲7.2	▲7.0	21.4	▲9.3	▲6.7	2.0	▲6.0
13年	1-3月期	▲5.8	6.0	▲5.2	▲6.6	28.3	▲10.3	▲5.4	▲3.2	▲2.4
	4-6月期	▲0.5	24.0	1.4	▲3.9	51.5	▲9.1	1.0	11.3	8.0
	7-9月期	0.8	24.1	2.3	0.3	46.9	▲6.8	1.1	14.5	7.9

（出所）財務省「法人企業統計季報」

（注）金融業、保険業除く値。設備投資は除くソフトウェア

○7－9月期経常利益は前期比小幅減

財務省より、2013年7－9月期の法人企業統計季報が公表された。全規模全産業（金融業、保険業除く）の経常利益は、前期比▲1.6％（前年比＋24.1％）と4－6月期から減少した。もともと、7－9月期の減益については、1－3月期：前期比＋7.0％、4－6月期：同＋9.6％と急ピッチの改善が続いた反動の側面もある。売上高が前期比＋0.9％（前年比＋0.8％）と3四半期連続の増加となっている点も併せて考えれば、年初以降の増収増益基調が途切れたわけではないと考えられる。企業収益は回復基調にあるとの評価が適切だ。

経常利益を業種別にみると、これまでの急改善の反動から製造業が減益（前期比▲5.2％）となっており、経常利益全体を押し下げている。一方、非製造業は同＋0.4％と4四半期連続の増加となった。建設業や不動産業が前年比で高い伸びとなっており、①公共事業の増加や②住宅部門における消費税率引き上げ前の駆け込み需要などが、非製造業利益の押し上げ要因になっていることが示唆される。

○製造業・設備投資が引き続き冴えない

設備投資（ソフトウェア除く、以下同じ）は前期比▲0.5％（前年比＋2.3％）となった。4－6月期は非製造業の牽引によって同＋2.7％と比較的高い伸びとなったが、7－9月期は減少に転じた。設備投資の回復ペースは、依然緩やかなものとどまっている。

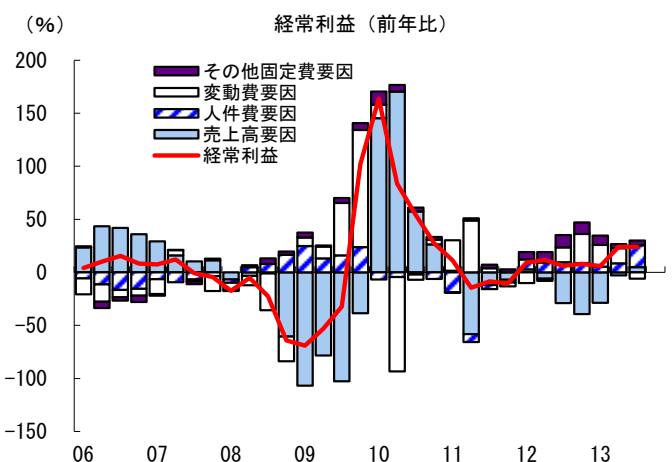
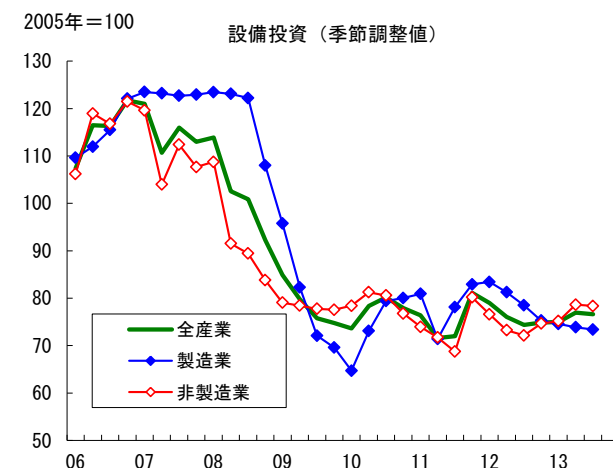
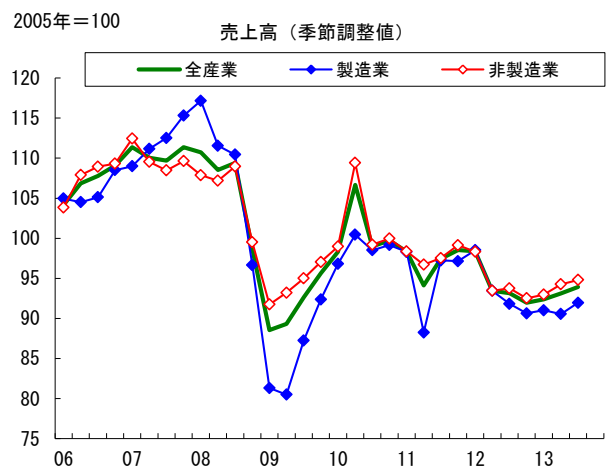
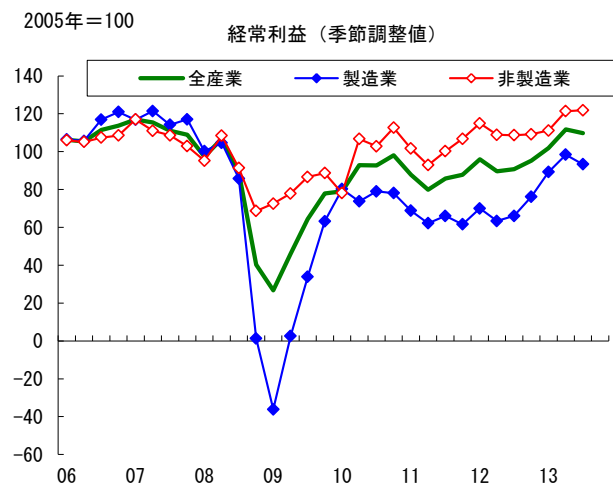
業種別にみると、製造業は前期比▲0.7％と6四半期連続の減少となった。投資環境は①収益回復を背景としたキャッシュフローの増加、②それに伴う景況感の改善などに支えられ良好なのだが、実際の設備投資は減少が続いている。非製造業は同▲0.4％と4四半期ぶりの減少となり、増加が一服する形となった。ただ、4－6月期（同＋4.6％）に大きく増加した反動の側面もあると考えられ、基調として非製造業の設備投資が悪化しているわけではないだろう。非製造業の設備投資は緩やかな増加傾向にあるとみてよい。

○今後は製造業・設備投資も上向く公算大

このように、7－9月期の経常利益・設備投資はともに前期比減少となった。ただし、先行きについてはともに回復感が強まる公算が大きいとみている。

まず経常利益については、輸出の持ち直しや消費税率引き上げ前の駆け込み需要を背景に、先行きは回復が見込まれる。輸出は新興国経済の減速などをを受けて7－9月期こそ伸び悩んだが、海外経済の回復やこれまでの円安による数量効果を背景に、10－12月期には増加する可能性が高い。なお、2014年度は、駆け込み需要の反動減によって、非製造業では収益環境の悪化が避けられない。ただし、外需の持ち直しなどを支えに製造業の収益が堅調に推移することで、増益基調自体は継続すると予想している。

設備投資についても、足元冴えない推移となっている製造業の投資が今後回復へ向かうとみている。足もとの関連指標を確認すると、先行指標の機械受注が持ち直していることに加え、一致指標の資本財出荷も10月は堅調な結果となった。これまで減少が続いていた製造業の設備投資が持ち直すことで、10－12月期の設備投資は前期比増加に転じるだろう。



（出所）財務省「法人企業統計」

（注）大中堅企業＝資本金1億円以上、中小企業＝資本金1億円未満の企業。